



# 令和5年12月度佐倉路地裏探検隊探索

(上志津・上高野・井野地区等)

令和5年12月13日(水)



# 佐倉路地裏探検隊

## 1. 小字

### 1) 上志津；

印旛沼南西丘陵に位置する。地内には牧の遺構や関連する地名がある。

【近世：上志津村】江戸期～明治22年の村名。下総國印旛郡のうち。「各村級分」では「旗本上杉領」、「級高旧領」では佐倉領。村高は「元禄郷帳」159石余。「天保郷帳」「旧高旧領」共に263石余。安政4年（1857）「領分村高帳」によれば畑高永納、小物成として夫役永127文・山錢鏝19貫820門が見える。村内北部を佐倉道が東西に横断している。明治6年千葉県に属す。明治22年志津村の大字となる

【上志津：上志津】明治22年～現在の大字名。初め志津村。昭和29年から佐倉市の大字。明治24年の戸数73・人口452・馬24。昭和3年京成電気軌道志津駅開設。昭和54年の世帯数3,627・人口12,162、昭和29年旧陸軍官有地が上志津原となる

### 2) 井野；

印旛沼南西丘陵に位置する

【近世：井野村】江戸期～明治22年の村名。下総國印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」200石余、「天保郷帳」「旧高旧領」とも306石余。弘化2年（1845）の免状では反別田29町余・畑屋敷8町余、安政4年（1857）「領分村高帳」におれば、村高のうち高50石余は人馬役御免で、小物成として夫役永600文・野山錢2両・野錢永880文。南部を佐倉道が横断しており、幕末期佐倉道南部の井野新田が佐倉藩の江戸詰引揚げにいて引き下げられ井野町となる（今村神社碑文参考）。千手院は明治6年焼失。同年千葉県に所属。明治22年志津村の大字となる

【近代：井野】明治22年～現在の大字名。初め志津村、昭和29年からは佐倉市の大字。昭和24年の戸数42・人口460・馬27。世帯数・人口は昭和49年1,324・4,792、同54年 2,551・8812

### 3) 井野町；

印旛沼南西部の丘陵地上に位置する

【近世：井野町】江戸期～明治22年の町名。下総國印旛郡のうち。元井野村新田にあたり、原野であった物を文久3年（1863）幕命により佐倉藩の江戸詰め藩士の引揚げに際し、その居住・耕作地としえ上志津村地内山林30町歩余をあわせて開墾し分与。茶種・粟苗等も払下げられ農業従事させると共に農兵として非常の警備にあてられた。明治4年には1～23番屋敷に区分され士族24戸が居住していた。明治4年千葉県に所属、明治22年志津村の大字となる

【近代：井野町】明治22年～冤罪の大字名。初め志津村。昭和29年から佐倉市の大字名。明治24年の戸数54・人口126・馬5。昭和49年の世帯数717・人口2,395

### 4) 上高野；

印旛沼放水路（新川）左岸の丘陵地上に位置する

【近世：上高野村】江戸期～明治22年の村名。下総國印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」192石余、「天保郷帳」「旧高旧領」とも309石余。明治6年千葉県所属、明治22年阿蘇村の大字

【近代：上高野】明治22年～現在の大字名、昭和29年八千代町。昭和42年から八千代市の大字。明治24年の戸数52・人口359・馬30。昭和43年に工業団地造成工事完成。現在は大規模な工業団地が複数完成

## 5) 上座：

印旛沼南西部、手繰川左岸の丘陵地上に位置する

### 【近世：上座村】

江戸期～明治22年の村名。下総國印旛郡のうち。佐倉藩領。村高は「元禄郷帳」295石余、「天保郷帳」「旧高旧領」ともに273石余。安政4年(1857)「領分村高帳」によれば、小物成として夫役永777文余・山銭鏝500文が見える。佐倉道が村内を東西に横断し東の徒歩点が田繰橋が近世以来、太い綱を張り手繰りながら渡ったという事で手繰橋ともいわれた。明治6年千葉県属、明治22年志津村の大字に

【近代：上座】明治22年～現在の大字名。初め志津村、昭和29年からは佐倉市の大字。明治24年の戸数77・人口515・馬60、昭和54年の世帯数1490・人口5374

## 2. 八千代市：

印旛沼放水路(新川)流域の丘陵地に位置する

【近代：八千代町】昭和29年～同41年の千葉郡の自治体名。大和田町と睦村が合併して成立。昭和29年9月阿蘇村を合併。合併各町村の大字を継承して26大字を編成。役場を萱田町に設置。昭和29年安生津(あきつ)が幕張町安生津となり25大字に。同31年佐倉市との間で一部協会変更実施。高津新田に同31年京成八千代台駅開業。同32年県住宅協会により日本で最初に八千代大住宅団地が造成される。世帯数・人口は昭和29年2676・15658、同36年5026・15658、同36年5026・23671、同40年9157・23671。昭和42年1月1日八千代市誕生。

【近代：八千代市】昭和42年～現在の自治体名。町制地の26大字を継承。市役所を大和田新田に設置。昭和43年京成勝田台駅開業。昭和43年勝田台団地、同45年米本団地、同47年高津・大和田新田に跨る高津団地、同51年村上団地に入居開始。昭和43年上高野工業団地、同46年吉橋工業団地が造成。同44年印旛沼干拓事業により堀の内が起立。世帯数・人口は昭和45年18912・69723、同50年33599・113707

### ※参考(八千代市関係)

①米本城と村上氏；中世の館城址として米本城址・吉橋城址・高津館址・正覚院館跡・尾崎館跡などがある。米本城は15世紀中頃に築かれた城で城域は南北300m、東西150m程で城主は村上氏。但し出自は不明。元禄3年(1558)3月13日自殺。減員不明。時の城主は民部大輔村上綱清で、自殺が原因で廃城(最後の戦で700余人が亡くなった為七百社神社に御霊を祀ったという話もある)

②近世 江戸期の検地；「元禄郷帳」によると、当市域の江戸期の村村で、千葉郡の大和田・萱田・高津・勝田・桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神窪・小池・真木野・佐山・平戸村・萱田町・高津新田・大和田新田と印旛郡の米本・下市場・村上・神野・保品・下高野・上高野で村高合計4,381石余。その後新田開発で村高は合計5,537石余に増加した。支配をみると千葉郡に属した村々は旗本領が多く、印旛郡の村々はすべて佐倉藩領であった

③大和田宿と佐倉道；大和田宿は大和田村と萱田町を中心に佐倉道に沿って細長く伸びた宿場であった。宿駅は延宝年間(1673～1681)に形成され、幕末には近江屋・中村屋・若竹屋・東屋・舩屋・林家等の旅籠屋が並んでいた。

### ※ 情報1【ユーカリが丘駅北口のモニュメント「歓び(よろこび)」について】

北口のペDESTロデッキの一角に2基の像があります。総じて「歓び(よろこび)」です。ユーカリが丘のシンボルモニュメントで「生きる歓び」として若い男女が共に力を合わせて進む姿を像として作られました(作者の小竹在住・彫刻家 久保浩氏説明) 左の男性像は「森の耀き」では、大きく・力強く、女性は「水の燦き」「愛らしく・優しくそして両方とも知的で野性的でしかも誰からも親しまれる容貌(ようぼう)に、又ユーカリが丘にふさわしい洗練された雰囲気のある作品にしたいという考えでつくられました(「わがまち10号」による) 男性の方は佐倉の豊かな緑の象徴である大山祇(おおやまつみ)で木の葉を着せ。女性は清い水の象徴として「天水波女」(あめのみずはのめ)ということにし、水の衣も着せた。

### ※ 情報2【ユーカリが丘北口付近のコアラについて】

北口のペDESTロイカ付近の通路や1階のひまわり広場にコアラは何匹いるかご存知ですか7匹おります。是非1度探してください。すべて銅製です、大きさや状態が異なります。開発会社と近隣住民等との間で開発地区の名前を付与する時、開発会社は自然環境との調和させる為に「ユーカリが丘」という名前を付け、4、5本駅前広場・モノレール整備葉駅等ユーカリの木を計約20本程植付た。しかし、当樹は油分が多いという事で可燃性が高い為、ユーカリが丘駅前に1本のみとし、整備場に10本強移植し、残りは移植失敗した。このユーカリの樹の葉を食べるのがコアラ。そこで7匹コアラを置きました。全部で7匹います。



### 3. 八千代市のあゆみ

#### 八千代市の町村の歩み

No	村名		明治22年4月以降の市町村名		
1	大和田村	おおわだ	大和田村	8月24日 （大和町）	（昭和29年1月1日） 八千代市
2	萱田村	かやだ			
3	高津村	たかつ			
4	高津新田	たかつしんでん			
5	萱田町	かやだまち			
6	大和田新田	おおわだしんでん			
7	勝田村	かつた			
8	桑納村	かんのう	睦村		
9	麦丸村	むぎまる			
10	桑橋村	そうのはし			
11	吉橋村	よしはし			
12	島田村	しまだ			
13	神久保村	いものくぼ			
14	小池村	こいけ			
15	真木野村	まきの			
16	佐山村	さやま			
17	平戸村	ひらど			
18	神保新田/内島田台		（ほぼ阿蘇村に属す） 佐倉藩	※（ほぼ阿蘇村に属す） 佐倉藩	
19	米本村	よなもと			
20	下市場村	しもいちば			
21	村上村	むらかみ			
22	神野村	かの			
23	保品村	ほしな			
24	下高野村	しもこうや			
25	上高野村	かみこうや			

※ 阿蘇（志津村の主導で阿蘇村と佐倉市でなく別の新市を作る計画がありましたが、最終的に阿蘇村は八千代市に。志津村は佐倉市に加わる事となった。その理由は志津村は急激に人口増が予定されるので主導的地位を望んだ）





#### 4. 井野長割遺跡



- ②盛土遺構の他に、当時では大規模と思われる土地整備が行われた。それは、東側斜面部で谷を埋め立てた痕跡がある環状盛土の形成過程で、斜面の他に部を約2m以上埋め立てたと思われる。複数の地層の層を分析する事で分かった。層の中には縄文中葉～晩期中葉の土器が大量に朱周度した事からゴミ捨て場と考えられる。本土層の由来は、中央窪地の地山と推測され、晩期に長時間かけて人為的に堆積したものと考えられる
- ③集落については、縄文時代後期前葉から晩期前葉迄の住居跡・土坑・墓坑・道・ピット群が存在する。盛土内に小規模な貝塚や土器塚が分布
- ④住居の中には後期中葉お推定直径10mを越す大型建物が存在、床面から炭化した竹製の敷物、主柱穴から炭化した柱材が検出。盛土の外部裾部（学校敷地内）には晩期前葉の住居跡には建替えが認められ黄褐色土で被覆されており、盛土の形成が晩期前葉以降にも行われていた事になります。

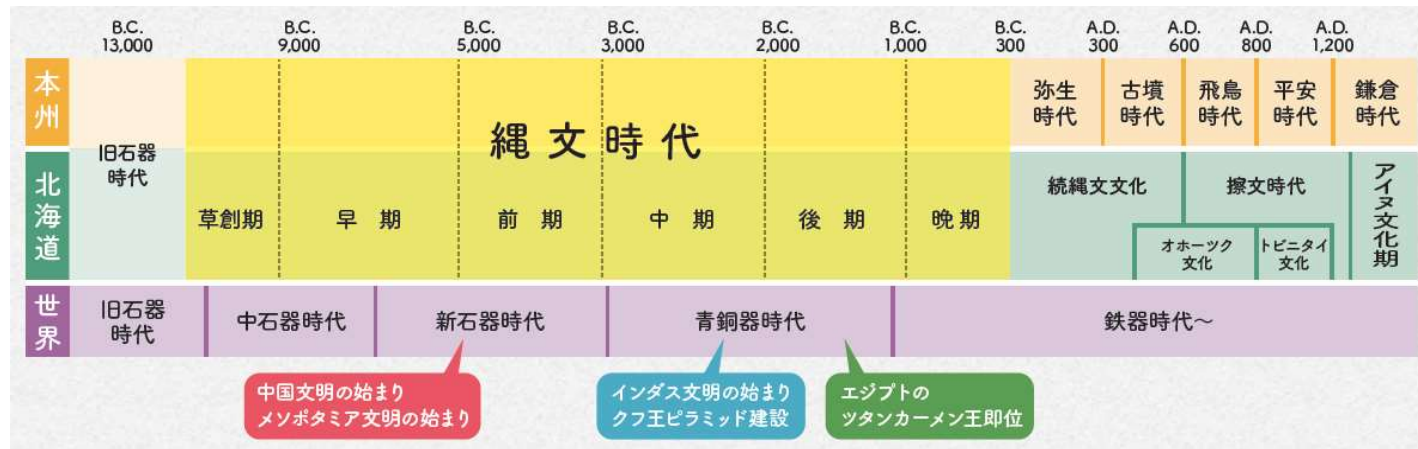
1. 井野長割遺跡は、印旛沼南側の台地上に位置する縄文時代後・晩期（今から約4000～3000年前に栄えた村の遺跡である昭和43年10月26・27日発見に西側マウンド(盛土) No7とヤマトシジミ主体の貝ブロック5カ所、炉址7基発見。昭和45年井野小学校建設に先立ちマウンドNo7で晩期中葉の住居跡1軒検出されその後17回の調査が実施された。その重要性から平成17年3月2日国の史跡となった。
  2. 「環状盛土遺跡」は縄文時代の人達が100年以上の時間をかけて土を盛り、その盛土群がドーナツ状に配置されたものと考えられる。現在最大比高差は約2mです。当時の規模は南北約160m・東西約120mです。外盛土 (M1・2・5・7)、うち森塚 (M3・4)、M5・7は校舎やプール建設時に無くなりました(建築会社や教育委員会でこの場にこのような重要な埋蔵文化財であること知りませんでした)
  3. 環状長割遺跡は、全国に61ヶ所。三内丸山遺も環状盛土遺跡で特別国史です。栃木県小山の国史・寺野東遺跡、君津市の三直貝塚、流山市の三輪野山貝塚、袖ヶ浦市の上宮田台遺跡、さいたま市の県史・小室山遺跡等があります。
  4. マウンドの意味あいには諸説あります。中央窪地は盛土遺構に囲まれ村の中心に位置する広場と考えられます。外盛土と内盛土とで構成され、外部より内部を遮蔽する遺構で、これは窪地にあった住居よりのゴミ等がつみあげられて出来たものという説や儀式的の為に人為的に盛土されたもの、窪地は広場・道・墓、マウンド上には住居やゴミ捨て場等・・・又何故環状型に盛土があるのか？講演会も度々行われていますか断定するものではありません。因みに佐倉市教育委員会の年季「風媒花」No20/21/28/29等にも記事がでてます。
- ①縄文中・晩期の長期にわたる土地利用の痕跡が確認され、特に後・晩期では印旛地域の中心的な集落である。特に同時期の大規模な遺跡は2～4km間隔で存在したが昭和末期からの宅地造成で遺存状況は悪いが、この縄文時代の盛土遺跡は奇跡的な遺跡である

⑤道は遺跡を挟んで住居跡やピット群が分布する区域や墓坑や貯蔵穴等の土坑群が分布する区域とが識別出来るほか、盛土や道と重複する遺構が存在しない

⑥出土遺物は、汽水産の大和シジミを主体にハマグリ・オキシジミ・オキアサリ等、シカ・イノシシ・ウサギ・ネズミ・キジ・鴨・うなぎ・ぼら・黒鯛・サヨリ・スズキ・ヒラメ等。貝や骨・角製利器や装身具も出土。盛土や各遺構からは土偶・土版（含む人面付き）・石棒・石剣・土性耳飾りや石性装身具他多種多様な遺物が出土。大型建物からは「異型台付土器」と呼ばれる土器2点等が出土

※参考

【縄文時代の区分】



縄文時代の区分に関して6区分するのは明確ですが、その一つ一つは研究者各人で年代を異にしています。この為上記分類をベースにして纏めてみます

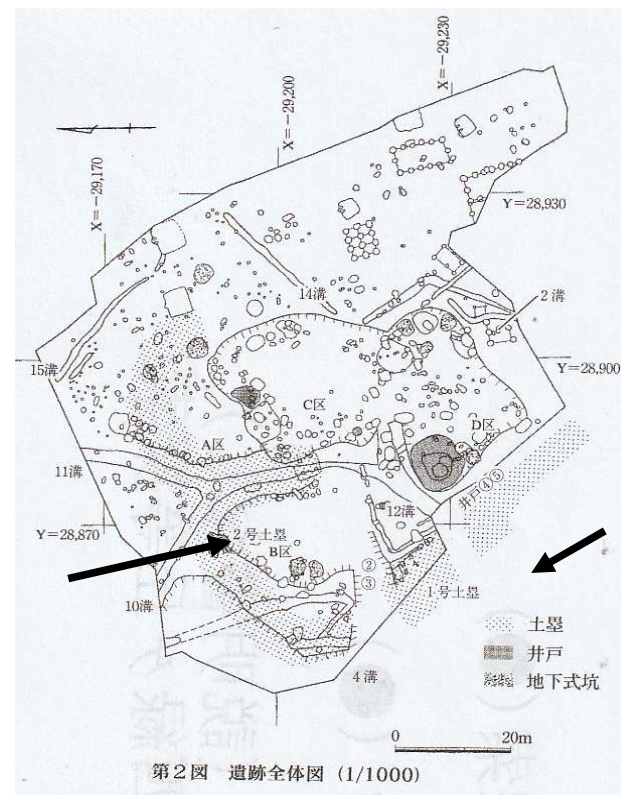
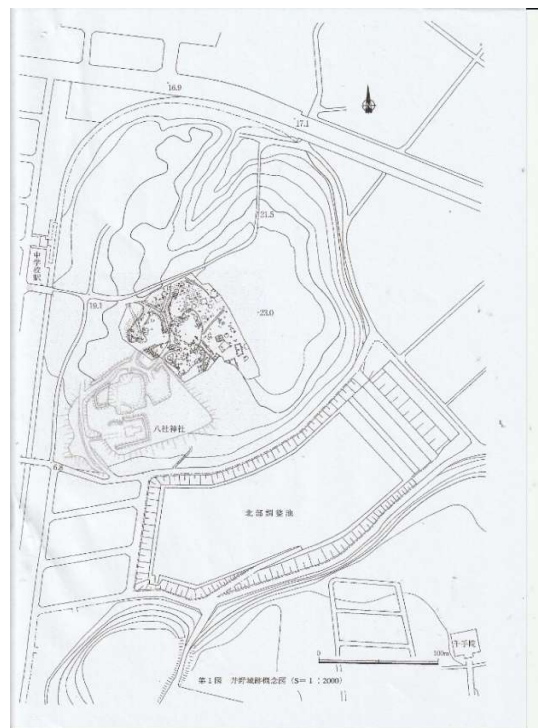
① 草創期	紀元前11,000～9,000	④ 中期	紀元前3,000～2,000
② 早期	紀元前 9,000～5,000	⑤ 後期	紀元前2,000～1,000
③ 前期	紀元前 5,000～3,000	⑥ 晩期	紀元前1,000～ 300

【井野長割り遺跡出土土器】





## 5. 井野城址



八社大神の裏側の井野城跡全体図と右図は井野城跡のみの図面です

井野の八社大神の裏の林や窪地を見ただけで、ここが中世の井野城址と言われても納得いく人は殆ど居られないのではと思います。裏側は公園等容に山が削られてしまっている事もありますので尚更です。実は平成13年に調査が実施されました。北東隅にあたる土塁が含まれ（1号土塁）とその南側にM字型土塁が確認され、更にその南側にすり鉢状に窪んでおりその中に台地整形区画の存在が確認されています。調査の結果、平安時代の住居跡6軒、掘立柱建物跡6棟が確認されました。当初はより西・南側まで古代の集落が広がっていたが、中世以降に壊せられたと推定されます。中世の遺構として貯蔵庫若しくは葬送施設と考えられる地下式抗11基、土坑300基、井戸4基、溝15条が検出されました。これら遺物により15世紀～16世紀に存続した城館跡であると推測されます。そして後半には地下式抗や溝を埋立て土塁を設ける等大規模な改修がみられた。佐倉市臼井屋敷跡や四街道市池ノ尻館跡では地表面おり低い位置に方形をした平場が設けられている点でこの井野城跡と類似している。丁度16世紀前半の房総は、古河公方足利高基と小弓公方足利義明兄弟の対立が周辺に飛火し争乱の舞台となった。本佐倉城を居城とする千葉氏と小弓城を拠点としていた原氏は古河公方。臼井氏は小弓公方に付いていました。天文6年(1538)に相模台(松戸)で両軍激突し臼井氏は破れ、居城である臼井城は原氏をむかい入れられました。原氏は臼井氏の基盤を吸収し、臼井周辺を治めていきました。出土品は、内耳鍋、播鉢・カワラケ等の焼物、瀬戸・美濃焼きの平椀や花瓶、天目茶碗、青磁の端反椀等。特に播鉢や内耳椀が多い大型井戸や鉄滓や轆(ふいご)羽口が出土した事から近くに小鍛冶等の作業をおこなっていたか？井戸から五輪の塔の一部。また八社大神境内でも中世五輪の塔の一部が発見された事から周辺に墓地があったと思われる(神社境内に？あく迄近辺にあったのでしょうか)



井戸から五輪の塔の一部を発見。また八坂神社



①



②



6-2. 散策マップ (詳細):



③



井野長割遺跡

④



⑤



⑥

## 地区スポット説明

1	2	3	4
京成志津駅	成田山護摩木用巨木(根元のみ)	七代市川団十郎成田山道標	成田山道標(岩田長兵衛と古帳庵の2基)
			
<p>開業は昭和3年(1928)3月18日です。駅自身は上志津に在します。令和3年(2021年)1日平均乗降客が12,136人です。平成30年は16,036人でした。令和5年15,716人。この3年間に急激に乗降客が減少しています。何故でしょうか??平成15年が17,984人でこの年が乗降客で最大です。現在はホームも8両編成対応でユーカリが丘方面にカーブしています。かつて昭和時代後半迄は6両編成ホームでした。多くの駅で平成29年頃から乗降客減少傾向です。将来の鉄道交通はどのようになるのでしょうか?</p>	<p>成田街道の井野交叉点の角地(現在は有料駐車場)に隣接して巨木のえのき?がありました。現在は切株のみ残っています。成田山への護摩木用の切株です。通常護摩木用の巨木そのもの、あるいは用地は成田山の所有ですが、当該樹や用地は如何でしょうか?成田山周辺では山林そのものが成田山の所有地です。毎年使用する護摩木は巨木を製材し乾燥させねばならず大変な作業です。現在の成田山の護摩木の調達はどのようになっているのでしょうか?</p>	<p>第7代市川団十郎ゆかりの成田山参拝する「かたへの道標を兼ねています。正面には「成田山道 是より北へ半丁清水原中有り(※加賀清水の意)」右面に「天は父地はかかさの清水可那」「天保2辛卯年(※1831)9月吉日 七代目市川団十郎 敬白」左面には「成田山ご参拝のお方様 御信心被遊此清水御頂戴被成候御夫人様方御懐胎被成候事」裏面には「無疑私御利益を蒙り御信心御方様吃度御子孫長久大願成就」と刻字されています。団十郎より成田山参拝する方に参拝御利益を改めて手紙風に刻字されていて非常に面白いですね</p>	<p>他に2基の道標があります。1基は江戸の古紙回収業で益を得た俳人の古帳庵と夫人の古帳女の句2首と道標を兼ねています。上部に「船橋へ4里 成田山5里半」とあり「春駒やこも小金の原つづ起古帖女」(※小金牧の意)「立ちとまりたちとまるかや舞雀 古帳庵」 両名の下に「江戸小網町」他の1基は成田山までに同類の道標を建てた岩田長兵衛建の道標。上座にも1基あります。正面に「成田山」「信集講者 岩田長兵衛」右面に「大和田〇里以乃新田」左面に「うす井〇里」左面に「うす井〇里 いの新田」裏面に「明治27年5〇〇〇」と刻字されています</p>
			



5	6	7	8
常夜塔	加賀清水神社	加賀清水1	加賀清水2
			
<p>東日本大地震で笠や胴部分が倒壊したおり全面調査されました。古銭や草袋等が出土。正面上には「成田山」「常夜灯」「倉前 齊藤庄兵衛 他2名」裏面には「文政10丁亥年(1827)5月」と刻字。是非とも土台の刻字を読みとってください。成田山への参拝には江戸からの方も多かった筈を証します。たまたまご商売は分かりませんが大きなお店屋さんなのではないでしょうか、倉前の庄兵衛さんが大きく立派な常夜灯をこの地に建ててくれました。実査に作った石工は習志野近辺の石工それとも江戸の石工??江戸の石工なら当然部分部分に分解したものを江戸から何で運んだのでしょうか?利根川経由の船と馬で志津迄?</p>  	<p>加賀清水の端には小さな社が。正面に「加賀清水」その左は摩耗して刻字が読めません以前は個人の方が管理されている「厳島神社」で、かつては「厳島神社」というがありました。摩耗した石碑はひょっとしたらこの厳島神社という石碑では?神様に「加賀清水」はないでしょうか?いつか祠の中の石碑が全く無くなりました。どなたかご存知ありませんか?</p> 	<p>佐倉藩藩主大久保加賀守忠朝が参勤交代の折この茶屋の林家で休まれ、お茶を飲まれましたが非常に気に入られました。その折使用した加賀清水の源水を使用したお茶で、以降頻りに立ち寄られました。加賀守より加賀清水と名付けられました。湧水ですが、現在もチョロチョロ出ていますが、雨水等で汚れ且つ落葉等が腐りコイ等いがなくて良かった!! この池は小竹川經由手繰川を経て印旛沼へ・・・</p> 	



9	10	11	12
加賀清水3	井野町稲荷神社1	井野町稲荷神社2	井野町稲荷神社3
			
<p>鳥居の奥には1004.5年頃子供のいたずらで池に投げ入れられ行方不明になっていた弁財天碑が発見されました。現在の巖島神社碑が建てられた後に発見された為、弁財天は巖島神社碑の横に並べられ祀られています</p> 	<p>文化年間(1804~1817)に創立された井野町の稲荷神社です。祭神は蒼稻魂命(うかのみたまのみこと)です。本殿は銅板の入母屋造りです。昭和63年に建替えされたものです。本殿彫り物なし。本殿の彫り物では先崎鷲神社、上志津八幡神社、臼井八幡神社、鍋木賀多神社、井野八社大神等の本殿の彫り物は素晴らしいものです</p> 	<p>残念乍ら本殿三方には彫り物なし。鳥居の左隅には、出羽三山塚供養塔(本殿右横にも)・月待塔・子安&amp;如意輪塔が。又本殿横には出羽三山塚が並んでいます。勿論No13の庚申塔が祀られています。本殿の3面には彫り物なし。ただし、屋根は片流れ・銅板です。小さい社ですが重厚な神社建築です。文化年間の建築ですので、佐倉藩次男三男の佐倉への帰藩時期より前の創立(井野町設立時期より前)なので、まだ佐倉藩有の山林等の一角にあった事になりますね？</p> 	<p>元は線路際の小字井野町にありました。分譲住宅建築の為一時行方が分らず探し回りました。結局現在地にうつされているのが分りホッとした事を覚えています。文政元年(1818)11月創立です。11代將軍家斉の時期です。文字塔で太く「庚申塔」と刻字されています。土台には三猿が。左右面の刻字は読み切れません！</p> 



13	14	15	16
上高野原 今村神社1	今村神社2	此処はどこ？上高野か井野か？	坂(仮称 今村坂 いまむらざか)
			
<p>現在は八千代市上高野にありますが、佐倉藩地にあります。市民が彼方此方散策しますが忘れてはいけない神社であり、碑文です。是非井野・井野町地区散策時には忘れずにこの神社に案内願います。文久2年(1862)藩政改革で井野上高野原野を藩士と子弟に開墾させ、更に農兵を募り士分となし、佐倉街道、上高野原を代官屋敷に配属した。代官今村省吾義則は代官屋敷と上高野の小銃訓練時、陣組の指揮をした塚(省吾塚)もあり、二重堀や土塁を築き、代官屋敷は館城になった。</p> <p>しかし佐倉藩は官軍に恭順し、明治4年に解散。藩士・子弟は帰藩し、農兵の一部(51戸)がこの地に定住。2反5畝(750坪)が与えられたが、開拓農民は生計が立たず、省吾は一身を投げ打ち重役に働き掛け1町5反余(3750坪余)を得て生活は安定した。人々は省吾の徳を偲び代官所跡の鎮守に屋敷神であった稲荷神社を合祀した。主祭神の倉稻魂神と共に10月20日の例祭日と左雨報賽を絶やさず現在に至る。今村稲荷と呼ばれる所以である(石碑より)</p>		<p>小竹川を挟んで佐倉市と八千代市が入り組んでいます。住宅整備がまだ不十分な帯の一つです。小さな敷地お細い道が入り組んでおり、時に迷って元の場所に出て来たりします</p>	<p>井野台地と小竹川を挟んで上高野台地の県道4号線に出る坂です。6~10度程、198m程。小竹川が基本的に佐倉市と八千代市の市境ですが、小竹川を超えて上高野台地の先迄佐倉市となり、佐倉市と八千代市が入り組んでいる地区です</p>
	 <p data-bbox="432 1329 629 1358">子安観音観音群</p>  <p data-bbox="768 1398 824 1425">石碑</p>		



17	18	19	20
辺田道1	辺田道2	坂(仮称 丸橋坂 まるばしざか )	忘れられた黒い馬頭観音1
			
<p>井野の台地上高野の台地の中間地帯で市境となる井野川が流れている。両台地の縁には住宅が密集し、台地下はかつては水田でしたが、その後休田となり、その後は雑草が蔓延りました。そこを整地し、両台地の間は湿地帯であったものを土盛りし現在は住宅地に変わりつつあります。このような場所を新興住宅化にしています。大丈夫かな??上高野台地下には辺田道、井野台地下は井野川沿いに散歩道があります</p> 	 <p>玄関先のポポの実</p> 	<p>令和2年度登録 通し番号No89、地区井野・井野町・地区番号No.2。上高野工業団地側の坂が同様に通し番号No88・地区番号No1で仮称「清水坂 しみずざか」井野地区に接続している坂がこの仮称丸橋坂で坂です。約5度・130m程です。黒い馬頭観音の前の坂で、佐倉市側の坂です</p> 	<p>上高野工業団地側から井野・ユウカリが丘に通じ、井野川を渡り少し坂(仮称「丸橋坂」(坂)通し番号No89・井野・井野町地区No2)の上り坂途中右側の土手の半ばに高さ50cm程の黒い石仏である「馬頭観音」があります。正面には馬頭観音像。上部に梵字。刻像の左右に 請〇〇〇〇 享保十(1725)〇十月〇日と刻字と読み取れます。恐らく佐倉側から、あるいは上高野から馬の背に又は大八車に引かれた馬が数多くこの坂道を行き来したのでしょう。途中で無くなった馬等を供養する為にこの地に馬を供養する為に馬頭観音が祀られているのでしょう</p> 



21	22	23	24
忘れられた黒い馬頭観音2	井野の梵天塚	庚申塔群	庚申塚上の庚申塔
			
 	<p>現在はきれいに整備されていますが、克つては塚の上にこれら三山塚が祀られていました。新旧含めて13基あります。一番後ろ側に文政3年(1820)お弘化4年(1847)の石仏があります。新旧とは明治元年の神仏分離令により三山の刻字で真中に湯殿山が刻字されていれば江戸時代以前の供養塔です。数年前、梵天塚の後に輪性寺の住職の墓石がありました。この方は井野出身の僧職でこの付近で即身物になられた方。ただしその場所は不明。梵天塚近くの石川様が先祖の真栗一空で八千代市宮内の辺田道上の地藏堂浦で即身仏になられた(一空造立の石碑2基が千手院にあり、井野住で千手院の僧職)と間違い輪性寺住職の墓石を千住院の墓苑にうつしました。更に墓石から「輪性寺住職名」を削り落としました(こんな事は許されません!!)</p> 	<p>梵天塚を挟んで幹線の反対側に5基の立派な庚申塔が整備され祀らR手ています。一部笠が行方不明になっていますが、笠付で刻像の庚申塔は寛政4年(造立1792)、笠不明で文字塔お庚申塔は万延元年(1860)造立です。この三猿はちゃんちゃんこを着ているが特徴です。この手の着物を着た三猿は市内では数基しかありません。後ろに3基の文字塔の庚申塔があります。造立は左側から文政13年(1830)、天保8年(1837)、文政9年(1826)です</p> 	<p>No23の庚申塚の手前奥の畑の中に大きな庚申塚があり。刻像庚申塔で元分5年(1740)の造立です。左面に 奉新刻彫青面金剛石造 為庚申講中二世安楽也 右面元文5 庚申 年11月吉日 井野村若者中と刻字。何故畑の中の大きな塚の上に? この前にも道があったのか??</p> 



25	26	27	28
子の神社	千手院の巨木	千手院の六十六部供養地蔵尊	千手院の石仏群
			
<p>社の中が二つに分かれており、左の部屋には「子権現」右の部屋には「稲荷」が祀られています。子権現の権現の石碑は天明8年(1788)造立で、五穀豊穰の神様です。稲荷神社の稲荷大明神の石碑は安政2年(1855)造立です。もともとこの神社は稲荷神社で、鳥居もしっかりしています。小さ目の常夜灯は嘉永7年(1854)。手水は安政4年(1857)奉納です。稲荷像は割れたりしたのが複数あります。此方の石仏を一度整理したいものです。小さな境内は近くの方が掃き清められています</p> 	<p>境内入口のスタジイは樹齢600年程のスタジイです。幹は火災にあって黒ずんでいます。枯れ死せずまだ青々とした新しい枝や葉っぱが芽吹いています。境内入口の左側にもう一本スタジイの巨木があります</p> 	<p>境内入口を入り右側の土手上に地蔵尊が1基あります。実は六十六部供養塔です。元文5年(1740)造立です。①台石正面には「六十六部廻行者井野村 毎月晨朝入諸地獄令離苦本願経白 無仏世界度衆生今世後世能引導 宗心慈性建之 ②右面には 千時元文五庚申天(1740)10月廿4日 開眼供養導師 千手院32助衆直西 法印快昌同妙感 ③左面 勘化村方 保品村 神野村 米本村上高野村 下高野村 先崎村 青菅村 小竹村上座村 上志津村」と刻字されています</p> 	<p>参道左右には秩父巡拝供養塔・子安塔(月待供養塔)・如意輪観音像・念仏塔・愛染明王塔(26夜塔)・23夜塔等が並んでいます。右側にも子安塔・や66部地蔵塔が綺麗に整備され並んでいます</p> 



29	30	31	32
千手院	馬頭観音群	天神社と観世音菩薩	五輪塔
			
<p>千住院は元は稲荷台4丁目「天畑西公園」付近にあった”蓮華王院金剛般若寺”と号し、明和3年(1392)(※南北町時代末期)に兵乱による火災等を恐れた住職澄秀が大旦那の小竹高胤に願って現在地に移転、その際千手院と改称されました</p> 	<p>4, 5年前はこの一角に乱立していましたが、馬頭観音のみ整備し並べられました。序にその右側に犬猫の墓地が作られました(箱型)6基の馬頭観音で1基のみ刻像馬頭観音です。造立は明和元年(1764)11月吉日、造立者は井野村中です。一番古い馬頭観音は後方左側の笠付文字塔で寛保3年(1743)で個人森谷庄兵衛造です</p> 	<p>左の社に入っているのが天神様です。神仏混淆(こんせい)時代に村の子女が毎年正月2日にお参りし、書初め等をこの社におさめました。明治12年~同34年迄、この寺には住職の渡辺阿刀が中等教育の私塾「渡辺塾」を開き近から毎年50名程の生徒が学んでいました。勿論この生徒も書初めをこの天神様の社に納め祈願していました。勿論字が上手になりますように〜となりの観音様は、志津中と北志津保育園の中間に在ったものを現在地に移されました。寛政11年(1799)5月吉日造で台石正面には講中13名願主 庄藏・勘右エ門太他11名。台石右面 むつ他7名・同左面 葉な他8名・同裏面 平十郎他8名台石計39名と非常に多いですね観音講中ですが、男性も混じていたのですね</p> 	<p>一番奥の住職のお墓の中に大きな五輪塔があります。この高3.2m程で享保9年(1724)造立です</p> 



33	34	35	36
真楽一空の六十六部供養塔1	真楽一空の六十六部供養塔2	廃寺 輪性寺住職墓石(元井野梵天塚の後にあった墓石)	大辻切
			
<p>真楽一空師造立の十三仏供養塔です。高さ約80cmです。正面には盡十方六九四生國入阿字寛永元戊申天(1842)5月吉日 井野村 真楽一空 十三仏の梵字を刻んでいます。背面には下総國 葛飾郡と刻字。同師は千手院僧侶で井野村出身。即身は八千代市寶意作不動堂裏にあり、上部に天日如来像が祀られています</p> 	<p>五畿七道を詳細に分類【※西海道9ヶ国、薩州1ヶ国、山陽道8ヶ国、山陰道8ヶ国、南海道6ヶ国、畿内5ヶ国、北陸道7ヶ国、東海道5ヶ国、東山道8ヶ国計57ヶ国を詳細に刻字、背面には嘉永7年(1854)真楽一空師 下総國葛西郡井野村 1月吉日 角来村 石屋甚兵衛と。わざわざ角来村の石工の名前迄刻字しています。江戸幕府末期に活躍した一空は宝喜作不動堂前の三語側に二十六夜塔を刻字(日輪天嘉永5年(1852)月輪天11月26日 村上・米本・麦丸・栗能の5名と5人の名を刻字)</p> 	<p>井野梵天塚裏に1基ありました。よく見ると上座村輪性寺〇〇(法名・名前のデータはどこかにしまっで見当たりませんでした)と刻字。これらを削ってあります。歴史を抹消してしまった近在の名士はなんという事をしてしまったのか!!一空の墓石は宝喜作不動堂裏にある天日如来さまです。裏に嘉永庚寅(※甲寅が正しい)年6月21日(※死亡年がこの年です?)</p> 	<p>小路沿いに大きな竹が出始め、崖側はがけ崩れに近い状態です。<b>手入れも行き届かず大勢の行動は避けた方が良いでしょう。</b>さて肝心の大辻は現在見当たりませんでした。既に10ヶ月以上経ちましたので無くなってしまったのか?周辺の樹々、小路の出入口も探しましたが見当たりませんでした。下の辺田道を犬と散歩されていた方は、上部の上の方で”がさがさ”音がするので、ひょっとすると”イノシシか熊”が出て来たのかと一瞬びっくり!しかし犬は吠えませんでした!実は私は幼児の時あだ名を「くまちゃん」と呼ばれていました。そのせいで犬は吠えなかったのか??</p>  



37	38	39(14と15の間)	40(39に続く)
愛宕社	大辻切	上高野原の大師堂	上高野原の大師堂の石仏群
			
<p>なかなか見つけるのが難しい場所にあります。社自身は新しいか？間口奥行3尺でマウンド(塚)の上に祀られています。祭神は過突智命(※かぐつにのみこと。軻遇突智命とも書きます)で火の神様です。芝の愛宕神社も同様です。伊弉冉・伊弉諾の子供です。出世の神様とも謂われています。約10年前には社の前に御夫人方(当時は若い御夫人も参加)が集まりみことを唱え、その後茶菓子を食べ・飲みながら各々方の話題・噂話を話し・笑い終わっていました。何せは畑と林に囲まれていて湿度が高くやぶ蚊が多いので早々に退散です</p>	<p>今回は多数の大辻切を見て来ました。今回見れなかったのは2つです。上志津入口のスーパの近くともう一つは一番最後の方で、山形県より左官屋さんが延べ300~400人手伝いに来た養蚕家の家・志津コミセン裏の辺田道沿いの樹の上2つです。是非ご家族で一度大辻切巡りをして下さい。魔除け・病魔除けになりますので。信じる者が最後は勝ちます。序に寿命が延びますように?? 近くの柿を10ヶ程度頂き、皮を剥いています。美味しい干し柿になるか？</p>	<p>看板には次のような案内が記されています。当地は佐倉藩領で、平時は農業に従事し、戦があれば刀を持って戦に行く農兵数名が住んでいた様です。文政13年(庚虎年。1830)弘法大師像を安置する大師堂を建立。千葉寺の札所で近郊では「虫除りの大師」と謂われています。毎月20日が縁日で(現在実施されているかは未確認!!)、近郊の多くの参拝者は、堂の下の砂を借りて行く参拝者も居られた。この境内には籠り堂があり、毎月20日の夜20日の夜大師様のお籠りがおこなわれた。このお籠堂いは昭和53年1月自治会館が建てられた</p>	<p>馬頭観音と善光寺・日光・秩父順禮供養塔等が並んでいます</p>
			



41	42	掛け1	掛け2
八社大神	井野城址	井野の大辻切(井野小学校)	千住院下の大辻切
			
<p>いつも対比されるのが、小竹の四社大神と井野の八社大神です。創立年代は不詳です。この神社の裏に井野城跡があります。この城の守護として創建されたと謂れているが城は室町時代後半と考えられ時代が合いません。当初は12所大神と称しましたが、うち4社は小竹四社大神へ分祀されたとも謂れています。井野・青菅地区の鎮守です。明治維新後村社となりました。本殿の4面と脇障子の2面彫刻は立派なものです3面には「須佐之男命の八岐大蛇退治」で右面は「櫛名田比売の両親」背面は「八岐大蛇」左面は「須佐之男命」右面脇障子「鞍馬天狗に兵法を学ぶ牛若丸」左面脇障子「鞍馬天狗のカラス天狗」正面には上り・下り竜が彫られています。組子・木鼻・浜床・等等は立派です。手水は安永8年像(1779)・常夜灯元禄15年造(1702)・疱瘡神天明8年(1788)造・子安塔は宝暦9年(1751)造です</p>	<p>井野城跡は。本5ページ目に記載しております。珍しく堀と思われるところに城郭がありました。空堀と思われるがちですが、古今館がありました。堀の上側に土塁がめぐらせてあります。この方が守りやすく攻めやすいとの事で同類の城郭が意外と存在したようです</p> 	<p>金網沿いの紅葉の樹より建物沿いの教員室前の柘植の大木に巻かれていました。紅葉の木は枯れて根元から切られていました</p> 	<p>千手院から女子大方面に坂を下った右側の大木に舞い着つけられています。かつてはもっと上部にか(石川様宅)けられていましたが。この坂名は仮称井野坂(通し番号90・地区番号井野・井野町No.3)です</p> 
			



43(38の次)	44	掛け	
坂(仮称 向山坂・むこうやまざか)		井野長割遺跡(国の史跡)	
			
<p>通し番号No93・井野井野町地区・地区番号No6で令和2年に探索しました。約7度・55m程の坂で元々は作場道です。鶏3羽が時に落ち葉の下をついばんでいます。何か虫がいるのでしょうか。放し飼いですが、猫などに襲われないのを願っています。5, 6年前天野宅に迷い込んだ1羽の赤い雄鶏が迷いこんで来ました。門の外に出し何処か他の処に行ってくれることを願いましたが舞い戻りました。已む無く高さ1m程の所にねぐらを確保し、早速餌を購入し買いました。しかし餌を求めてネズミが急増しました。早朝大声でコケッコー。しかし約1年後の深夜に猫に襲われ庭中逃げ回りました。渡しもこの大騒ぎに気がき庭に出て猫を追い出すべく行動を起こしたのですが、心臓発作で死んでいました。庭の一角に埋葬しました</p>	<p>詳細は5ページをご覧ください。国の指定文化財です。もっと保存を大事にするなら、敷地内に入らない事をはっきりさせる必要があります。本史跡を説明する施設を作るような計画で、小学校敷地をお借りするより已む無い。そこへの自由な出入りが可能な事が条件。何故このような形状の集落が出来たのか、必要なのか？手繰川支流か？印旛沼を含めた香取海の入江がこの近く迄広がっていたのか？地理的考察も必要か？そして短期間にこの環状型集落が水稻栽培が始めた為(狩猟生活から)人が適地に移動したようだが？市内の弥生遺跡とこの井野長割遺跡住民の移動先は？又同じ時期の縄文時代遺跡の分布は？</p>		
 			



49(No25と26の間)	50	51	52(掛番)
聖観音菩薩兼道標	弘法大師道標	大辻切り	もう一つの大辻切り
			
<p>秩父巡拝塔が本来の目的ですが、その為に聖観音菩薩像を彫られた訳です。しかし剥落が非常に進んでいます。余りお勧め出来ませんが社で覆っていただければ有難いのですが、非常に貴重な像なので、この正面の道は旧道が台地の下の方に存在しましたが現在は竹林にその先は土地開発で消滅してしまいました。台石正面に右かやた(萱田)たかもと(高本)、左大はた(大和田)と刻字されています。共に八千代市です。さてこの道標が指す旧道はどこの道を念頭に置いているのでしょうか？</p>	<p>刻字が見づらくなりました。正面には弘法大師諸願成就 正面右側に東 小竹白井佐倉道 左面に南 井野新田道 右面に 北 青菅下高野道 背面に西 上高野城橋カチ道 千手院には大師堂がありますのでこの道標は千手院への道標になります。T字路に現在道標があります。本来は聖観音像の前に消滅した旧道がありました。又梵天塚方面の幹線から坂を下り馬頭神社方面への旧道がありました。しっかりと道標の前に立ってどこに旧道があったのか、どの旧道を行けば良いのかしっかり考える必要があります。旧道に関係なく東西南北方向を考えるならこの道標は正解ですが</p>	<p>No50の後ろ坂道を少し下った所の左側の木の上に祀っています。全体的に令和4年度(英和5年1月)に祀られた辻斬は木の下側祀られています</p>	<p>たまたま横を取ったので追加で入れ込みました。元養蚕家屋の近く志津コミセン裏のもので。あれえ！樹の上でなく組まれた枠の上に祀られていました。趣きがないなあ！是非樹の上をお願いします</p>
			



53

京成ユーカリが丘駅前  
”歓びの広場”

佐倉市在住の彫刻家久保浩氏作です。2基の像で総して「歓び（よろこび）」で平成10年作。左の男性像は「森の耀き（かがやき）」で「木の葉の着物を着た大山祇（おおやまつみ）」（※森の神。伊弉諾（いざなぎ）と伊弉冉（いざなみ）の子）を、右の女性像は「水の耀き（かがやき）」で「水の衣を纏った天水波女（あめのみずはのめ）」を表しています



54

54

志津駅北口付近



56

